

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目につくところに貼り出し、職員会議や朝礼で定期的に確認を行い、共通認識が持てるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の奉仕作業への参加、散歩や回覧板を回す際など会話する機会が持っている。町内会の花見はホームで開催してもらっており、夏祭りなどでも多くの方々にお越し頂いている。地域の方の慰問や幼稚園児との交流も行っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	花見や夏祭りなど利用者と地域住民との交流の場を設けることで、身近に感じて頂けている。また、地域の方から介護に関する問い合わせを受けることもあり、地域に定着してきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、町内会長、行政、市議会議員、民生委員に参加してもらい、必ず2カ月に1回開催。その間の行事報告等行い意見交換を行い、サービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には必ず市職員もしくは地域包括支援センター職員に参加してもらっている。生活保護受給者についても、緊急の受診など担当者と連絡を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束適正化検討委員会を毎月行い、身体拘束の防止、特に不適切なケアについて毎回委員はスタッフから聞き取りを行い、会の中で検討している。また、全職員を対象とした外部講師を招いての施設内研修会も実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の身体的拘束適正化検討委員会と施設内勉強会、職員会議等にて勉強・意識付けを行っている。また、来客者用・職員用トイレ、玄関等に高齢者虐待に関する対応、体制、通報相談に関する文書を掲示している。また、直接申し出にくい場合を考え、玄関に意見箱を設置している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を通して、全職員が理解できるよう努めている。昨年までユニットうららに成年後見制度適用の方がおられ、対応していた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>問い合わせを頂いた際には、パンフレットや料金表を配布、可能であれば直接施設見学をしてもらい、申し込みを頂いている。契約の際には、重要事項・契約内容・理念等を管理者にて説明を行っている。今年度の加算・料金の変更時も、家族会を開催し説明を行い同意書を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常生活的な生活の様子については、ホーム便り、面会時にはその都度近況報告を行っている。利用者からの意見については日々の関わりの中で、家族の意見については面会時や、家族参加の行事を含めた家族会の中で意見を頂き、報告の場としても活用している。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月GH全体の職員会議を開催、意見を求めている。欠席の職員へは会議録と資料を併せて配布し、意見や感想、理解した内容を報告書で提出してもらい周知を図っている。また必要に応じて、個別に面談を行い意見を反映している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>業務標準書を作成しており、ケアの質の向上や働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。また、資格取得についても奨学金制度があり、資格取得に向けてサポート体制がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職員については法人の新入職員オリエンテーションに参加している。また施設内の研修会以外にも、老施協の研修等、希望を募り参加できる体制がある。また資格取得などについても、奨学金制度を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡協議会や鹿児島県老施協主催の研修等へ参加し、周辺地域の同業者との協力・交流を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所の意向を確認した後、入所日までに極力担当ケアマネ、家族にも同席してもらい、直接面談を行い、本人の話を伺い、不安の解消やケアプランへの反映を行っている。状態について事前に職員に周知することで利用者の不安が軽減される環境づくりを行っている。利用開始後は日常の会話から小さなことでも不安等を汲み取るようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前の情報収集などの関わりの中で、小さな訴えも漏らさないようにし、失礼のない範囲で掘り下げている。また、家族とのみ話をする機会も設け、家族の要望を聞き取るようにし、不安の解消に努めている。また面会の際などにも近況を伝えながらコミュニケーションに心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談に来られた際に、本人、家族から思いを伺い、グループホームの利用が望ましいのか検討している。サービス開始後は1カ月を目途にケアプランの見直しを行い再アセスメント行う中で検討している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を目指す中で、出来る限り慣れ親しんだ家事など利用者本人でできることはお願いをするなど、生活の継続を念頭に置き、身体的に難しい方には、様々なことを教えて頂くなど、その知識、経験を活かし関係性のバランスをとるよう心掛けている。また、様々な活動を通して信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的な病院受診の付き添いや送迎、自宅への外出、買い物や外食などの協力を頂いている。面会時などには近況報告を行い、家族からも出来る限りなんでも協力しますと一言下さる関係性がある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	自宅への外出など個別の要望に対応できるよう家族と調整している。また、昔からの顔馴染みを含めた面会なども頂いている。昔から通っている美容室を利用されている方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流を好まれる好まれない等、本人の意向を大切にし、利用者同士の関係性を踏まえ、テーブル配置やグループ活動の際の並び等考慮している。必要に応じて職員が間に入るなどしてトラブル等のリスクを減らすようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>住み替えをされる方については、事前に居宅や担当者と打ち合わせを行い、その都度本人、家族へ連絡、スムーズな住み替えが行えるようにしている。入院等による利用中止の場合は、退所後も定期的に状態を家族や担当者、面会等により得ている。また、希望があれば再入所に向けて調整を行っている。利用中止後も家族がホームへ足を運んで下さることもある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりから日常的なコミュニケーションなどで得られる希望や意向を汲み取り、必要に応じて家族へ相談や確認を行っている。困難な場合には、その時の本人の表情や家族から意見を伺うなどし検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況について、担当ケアマネや家族から「利用者の生活調書」を用いて生活歴等の情報収集を行っている。利用後も本人との会話の中で得られる情報について、面会の際などに家族に話を伺うなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や病院受診記録等の中に日常の状態を記録し把握に繋げ、朝礼等で検討・共有している。また、3カ月に1回のモニタリングにて確認も行い、必要に応じてケアプランに反映している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケース記録や病院受診記録、職員への聞き取りから本人の状態把握を行い、本人、家族の要望、モニタリングや事故報告書、ヒヤリハットの情報を基に作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設内勉強会でも記録について学び、小さな変化、気づきなど本人の言葉をそのまま残すなど誰が見てもわかりやす記録を心がけている。必要に応じて朝礼やユニットにて検討・共有し、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診や外出・外泊などその都度臨機応変に家族と相談しながら対応している。家族の希望があれば宿泊の受入体制もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園児との交流会、町内会の花見への参加など行っている。また、初詣や花見など地域の神社や広場を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関・協力歯科医院もあるが、基本的には本人・家族と昔から交流のあるかかりつけ医を継続して頂くようお願いしている。専門医等受診の際には、家族、かかりつけ医も交え十分に検討している。受診時の付き添いは家族にも協力してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の健康状態の把握、主な受診の付き添いを行い、その内容を受診記録に残し、朝礼等にてその都度申し送りを行っている。介護職員も日常との違い等異変に気付いた場合には看護師に報告するよう統一している。週一回の訪問看護師にも一週間の状況や経過を報告、必要な助言をもらい連携を図り、24時間連絡が取れる体制を整えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には必ず情報提供書を作成し、看護師や医療相談員に今後のことを相談している。入院中も定期的に面会に伺い、入院状況報告書を作成し状態把握の共有を行っている。退院時には、サマリー等の情報、医師や看護師、医療相談員から注意点等伺っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所できるとを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時の契約の際に、看取り介護の指針を説明、意志の確認を行っている。実際に看取りの時期が近付いた場合には、現在の本人の状態を見ての心境の変化等も含め、再確認を行っている。医師、訪問看護師等とも密に連絡を取り、家族にも細かな面会をもらい、本人の状態把握を一緒に行うようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年1回の消防署での救命講習の受講と施設内研修会にて緊急時対応について学び、AEDも設置している。また、救急搬送に備え、救急隊への情報提供カード、緊急時マニュアルを作成している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月の自主防災訓練、年2回の総合防災訓練を実施している。緊急連絡網には、協力をお願いしている近隣住民や担当地域の消防団も含めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄時の声掛け、必ずドアを閉めることなどの配慮を徹底している。スピーチロックや不適切なケアへと繋がる可能性が高いことなので、身体的拘束適正化検討委員会や朝礼等にて確認を行ったり、必要に応じて個別面談を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望・要望を伺い、複数選択できる場合、自己決定できる方には判断を委ねるようにしている。また、思いを伝えられない方については、表情などから汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お風呂の案内は終日行い、好きな時間に入れるよう工夫し、トイレや歯磨きなど画一的に行わず、必ず個人に確認してから案内するようにしている。利用者によっては部屋で過ごされる方などもおり思い思いにすごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出等の前には事前に声をかけ着替えをして頂いたり、希望時には訪問理容や家族による染髪に出掛ける段取りを取っている。着替えの際には、本人に選んでもらい、色合いなどに注意している。食べこぼしや髪の毛の乱れなどある方もおり、日頃から注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレクや食材の下ごしらえ、片付けなど一緒にしている。好みや形態など工夫し安心して美味しく食べられるようにしている。また、季節に合わせた行事食を取り入れ、楽しんで頂いている。自宅からの習慣で朝はパンとコーヒーを召し上がる方が2名おり、臨機応変に対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録し、確認している。状態によって摂れないこともあるので、時間をずらしたり、生活全体の中で摂れるようにしている。特に飲み物は、好みの温度などにも配慮し、水分ゼリーも提供している。水分制限のある方もおり、個別に行っている。感染症流行の時期には生姜湯の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に毎食後声掛けや介助を行っている。歯ブラシ、義歯ブラシ、プラウトブラシ、ハミングッドなど適切な用品を準備し、必要に応じて協力歯科医院に往診してもらっている。気分により実施できない方もいるため、気分の状態を見極め、少なくとも一日一回、特に就寝前に行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	カバータイプよりも紙パンツ、紙パンツよりも布パンツで過ごせるようにできる限りトイレへ案内、状態に合わせて二人で介助も行い、記録を確認し排泄間隔をみながらトイレへ案内している。適切な用具の選定や家族への提案等も随時行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用については主治医に相談し、状況をみながらなるべく減量できるようにしている。軽体操や嚥下体操、水分量の確認、下剤ばかりに頼らずヨーグルトなど自然なもので排便できるよう取り組んでいるが、洗腸や下剤を使用している方もおり、随時医師に報告し、指示を仰ぎ対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の声掛けに断られることが多い方は、朝から声掛けいつでも気が向いたときに入浴できるよう数回声掛けしている。通常の個浴、リフト浴を状態によって使い分け、ゆっくりと温もってもらえるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明、寝具等個人に合わせて安眠できるよう工夫し、その時々状況によって休まれる時間も自由である。また、低床ベッドやL字柵等も取り入れ、週1回のリネン交換（汚染時は随時）を行い衛生的にし、気持ちも落ち着けるようバタバタせずゆったりと行動するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方箋をファイルにつづり、いつでも確認できるようにしている。内服の変更等があった場合には朝礼等にて情報共有を行っている。処方から服用までに3重の確認を行い、顔写真付きのケースで内服を管理するなど誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後に皿洗いをされる方などいる。洗濯物量などは数名で団欒しながらして下さっている。また、全体でのレクリエーションや手芸活動、花壇の手入れや食材の下ごしらえなどして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外気浴やちょっとした戸外への散歩、エアメモリアル見物、霧島ヶ丘公園などへのドライブなど季節に合わせて外出を行っている。ご家族との外出も行っている。しかし、その日の希望に沿って遠出するような外出はできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理はご家族がされている。買い物等希望があった場合には立替にて買い物できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族から電話がきた際や、本人から希望があった際には直接本人にお話しして頂いている。年賀状など手紙は必要に応じて代読している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度にも注意し、手芸活動で作った季節の作品なども定期的に飾り替え楽しんで頂いている。利用者同士の関係性も考えテーブル配置を行っている。音楽をかけてゆっくりとできる雰囲気づくりをしている。掃除を徹底し気持ちよく過ごせる空間づくりを行い、照明なども時間によって暗い感じにならないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思った時に使用出来るようリビングに畳台やソファを設置し、くつろぐ場として使用して頂いている。テーブルは気の合った方が一緒に座れるよう配慮し、一人を好まれる方は一つのテーブルを一人で使用することもある。また、自由に居室で過ごされる方もおられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテレビやラジオなどを持ち込まれている方がいる。好みの音楽を流したり、家族写真などを飾っている。本人や家族と相談しながら居心地の良い居室になるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレ内には手すりを設置し、それを使用し歩行される方もいる。また、トイレの場所が分かりやすいよう居室前から見える位置に案内を作っている。転倒の原因とならないよう床からのテーブル類は邪魔にならないよう隠すよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない